

小泉山体験の森 整備事業

取組に至る背景・事業の目的

小泉山体験の森創造委員会では、平成14年から身近な里山である「小泉山」の整備活動（遊歩み道・登り口）をはじめ、子どもたちを中心とした自然体験学習のサポート活動を行ってきた。また、平成17年度からは魅力ある体験の森にするため、本格的な活用及び維持管理事業に努めてきた。多くの方にこの体験の森を安全に安心して活用していただくためには、登山口をはじめ、遊歩道や山頂部の整備や草刈りなどは欠かすことができない。特に近年は、雨水による登山道や木製階段の傷み、看板の老朽化が進んでいた。そのため、平成29年度より3か年計画でリニューアル整備を行うこととなり、初年度として、駐車場看板6基、案内看板4基、由来看板1基、中沢登山口の工事を行った。老朽化で見にくくなっていた看板をリニューアルすることで、利用者に気持ちよく利用していただくとともに、地域の皆さんにも整備に参加していただき、身近な里山を守っていく意思確認をする機会となるよう企画した。

事業内容

小泉山体験の森創造委員会では、小泉山周辺の地域住民や学校関係者、行政が協働して小泉山の整備・活用に取り組んでいる。今後も継続して、地域の子もたちが自然体験学習をしたり、親子や地域のふれあいの場、憩いの場として活用してもらえるよう、できるだけ多くの地域住民や子どもたちに小泉山や活動内容を知ってもらう機会を作る。

- ・10月10日 二本松由来看板設置 10名参加
- ・10月18日～30日 駐車場、案内看板設置 8名参加
- ・11月16日 中沢口登山道整備 5名参加
- ・11月23日 栗沢口駐車場、案内看板設置 20名参加



【中沢口案内看板設置の様子】

事業効果

- ・「看板がきれいになって見やすくなった」という声が聞かれた。中沢口からは毎年保育園児が登山で利用するため、水切り工事により、雨水による登山道の傷みが無くなった。
- ・創造委員以外の地域住民に整備に参加してもらい、小泉山に興味を持ってもらうことができた。保育園児や小学生にも参加してもらえた。
- ・公民館の行事として、小泉山登山を行った区が3区あった。オオムラサキの保護活動や観察に協力する学校が1校増加した。小泉山を登山で活用する保育園が2園増加した。
- ・オオムラサキ保護活動や課外学習で小泉山を活用する学校やクラスが増えており、歩きやすい登山道と見やすい看板の整備により、安全に配慮することができる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

小泉山の存在は知っているが実際に登ったことのない地域の方や子どもたち、小泉山体験の森創造委員会の活動について知らなかった方に参加してもらうことを企画したが、雨天により作業ができず、その後の日程調整が難しくなり、子どもの参加が少なかった。

小泉山で体験したことが子どもたちの心に残るよう、引き続き小泉山の整備や様々な活動、イベントを主催していきたい。来年度以降も、地域住民、学校関係者や行政と協働し、整備活動やオオムラサキの保護活動など継続して行っていく。

【選定のポイント】

地域のシンボルである小泉山を地域住民と協働で整備し、公民館や学校の行事に活用できる場を作ることにより、地域に広がる形での世代間交流の促進・環境整備が期待される。

団体名	小泉山体験の森創造委員会(茅野市)	事業タイプ	ハード事業
連絡先	TEL 0266-72-2101 (内線 634)	事業費	1,698,408円
HP	http://www.city.chino.lg.jp/	支援金額	1,132,000円
Mail	shogaigakushu@city.chino.lg.jp		